概　要

漁況海況予報事業*

杉村　允三・竹内　淳一・中地　良樹・武田　保幸
樫山　晃晴・調査船「わかやま」藤井一人　他６名

目　　的

本県沿岸および同沖合の海況と漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行う。同時にこれらの情報を漁業関係者に報告して漁業経営の合理化に資する。

方　　法

平成６年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

結　　果

和歌山県漁海況情報（第113報～第124報，毎月）ならびに沖合黒潮調査速報（1994.No. 4～15、1995.No. 1）にすべて速報した。特徴的な海況と漁況の概要は以下のとおりである。

１　海　況

黒潮：黒潮は、'93年12月後半以降'94年 4月上旬まで九州東岸～潮岬で概ね接岸を持続したが、4月中旬に種子島東で小蛇行が発生し都井岬南東域でかなり離岸した。小蛇行の東進に伴い５月は都井岬～四国沖合で離岸、 6月前半は室戸岬以西域で離岸傾向を示したが、小蛇行は 6月後半にはその前面が紀伊水道沖に達し、同月下旬後半に潮岬を通過した。その後黒潮は九州東岸～潮岬で接岸となり、 '95年 1月前半まで南西海域では概ね接岸を持続した。しかし、 '95年 1月後半には都井岬南東に新たな小蛇行が発生した。この小蛇行の東進は速く 2月前半には四国沖合に達し、 3月下旬には潮岬沖合へ東進した。

潮岬以東域の黒潮流路は、 4月はＣ型、 5月はＮ型直進流路で経過し、前述の小蛇行が潮岬を通過した 7月前半は熊野灘で一時蛇行流路となった。しかし、同月後半にはＮ型となり、 '95年 3月までＮ型を持続した。この間10月後半～11月後半まで、黒潮は遠州灘で極めて接岸の流路で経過した。

潮岬沖の黒潮は、 4月以降は 6月下旬後半および12月やや離岸したものの概ね20浬以内の接岸傾向で経過し、 '95年 3月後半に蛇行の東進に伴い同岬南50浬の離岸となった。

沿岸海況は黒潮の接岸基調の海況を反映して紀伊水道側では振り分け潮の形成が卓越し、黒潮北縁擾乱に伴う暖水波及も頻繁にみられた。特に春季の紀伊水道内への暖水波及は前年より約10日早く水道外域中央から侵入して湯浅湾まで達した。 7月は中下旬以降猛暑の影響を受け、各海域の表面水温は高くなり、特に 8月は高め～かなり高めであった。串本の定地水温は 7月は18日間、 8月は17日間過去の最高値を更新した。熊野灘南部では小蛇行通過直後に北部からの暖水波及がみられた。また、 7、 8月の上旬に規模の大きな沿岸湧昇が発生した。

沿岸水温：定線観測の各海域の水温は次のとおりである。

＊ 漁海況予報事業費による。「平成６年度漁況海況予報事業結果報告書」として既報。

紀伊水道内：表面水温は、6月のやや低めを除いてプラス基調で経過し、特に夏季（8月）以降は全般に高めとなり3月にはかなり高めとなった。30、50mでは、7月のやや低め、8月のかなり高めを除いて概ね平年並み～やや高めとなり、冬季に30mで高めで経過した。

紀伊水道外域：特徴的であったのは、7月の50、100mでやや低め、8月の各層で高め～かなり高め等が挙げられ、全般的には紀伊水道内部同様にプラス基調で経過した。

紀南域（瀬戸埼～潮岬）：10月のやや低めを除いては概ねプラス基調で経過した。12月に各層でかなり高め、1月は各層で概ね高めとなり冬季に水温が高いことが特徴的であった。

熊野灘南部：表面水温は、4月のやや低めを除いて概ね平年並み～やや高めで経過した。30、50mでは、6月にやや低め、10～11月に低め～かなり低め、12月にやや高めとなったが、他の月は平年並みで経過した。100mでは9月のかなり低めを除いて平年並み～やや高めで経過した。200mでは月別に変動がみられ、11月は高めであった。

2　漁　況

マイワシ：当歳魚は5～8月に串本漁協1そうまき網によってまとまって漁獲された（1そうまき網1統、5～8月計690.5t）が紀伊水道外域では低調であった。

1995年冬季の産卵親魚漁獲量は前年をかなり下回り、来遊期間も例年より短かった。2月には体長モード15cmの中羽群主体であったが、3月はモード19cmの大羽群に代わった。

マシラスは前年同様1995年1～3月に外域の田辺湾で好漁であったが、南部湾・日高川河口域では低調であった。紀伊水道内では冬季の水温が平年より高めであったため、初漁が2月上旬とかなり早期になり、3月上～中旬にはＣＰＵＥが急増し量的には6年ぶりの大好漁となった。主漁場は紀伊水道北部に形成され、漁場の北上が早かった。これは太平洋系マイワシの資源水準低下に伴って南西外海域において地方群化が進行し、土佐湾沿岸域で集中的に産卵が行われたことと、黒潮小蛇行の東進により黒潮系暖水が紀伊水道内へ強く流入し、仔魚の補給条件が良好であったことが主因と考えられる。

カタクチイワシ：紀伊水道パッチ網による春季シラス漁は3月下旬にマシラス主体で初漁があり、4月中旬からカタクチシラスが漁獲に加入した。しかし、カタクチシラスが量的に少なく、5月中旬以降例年より早期に低調になった。6～9月は猛暑・少雨による高水温が影響し、シラス漁は極めて低調に推移した。秋季シラス漁も9～12月対前年比40.3%と、不漁であった前年をさらに下回った。

ウルメイワシ：大羽群は南部町漁協1そうまき網で5～8月に約80t漁獲されたのみで、低価格のため漁獲努力が向かなかった。棒受網による当歳魚漁獲量は5～8月に各地で前年同期を上回ったが、9月以降は低調になり、9月末でほぼ終漁した。

サバ類：4月に串本1そうまき網が潮岬周辺においてマサバ（体長範囲20～34cm、体長モード27cmの1歳魚主体）を159tまとまって漁獲した。水道外域では4月から7月中旬まで低調に推移したが、7月28日から市江埼～瀬戸埼沖にマサバ（体長モード31～32cm）が来遊し、9月上旬まで漁獲が持続した。9月中旬以降いったん漁獲が切れていたが、11～12月に再びマルアジとともに漁場形成がみられた。漁場は紀伊水道外域中央部で、魚体は体長モード31～32cmの中型群であった。1995年2～3月は低調に推移した。

春季、紀伊水道内でマサバ当歳魚が例年になく出現した。また、熊野灘では 8月下旬～ 9月に熊野川河口周辺に当歳魚が大量に来遊し、棒受網で漁獲された（ 8～ 9月計、勝浦漁協162t、宇久井漁協252t)。その内、ゴマサバは約７割の混獲であった。

マアジ： 4～ 9月には、卓越年級群である１$^{+}$ 歳魚（1993年級群）主体にまき網、定置網とも好漁を持続したが、魚価の低迷が目立った。10月以降は低調に推移した。当歳魚（1994年級群）の漁獲量は前年の水準をかなり下回った。

3　沖合・沿岸・浅海定線調査報告、海況・漁況情報の発行

1）　沖合・沿岸・浅海定線調査報告

主な配布先　水産庁、水産研究所（南西、中央他)、都道府県水産試験場、気象庁、漁業情報サービスセンター、水路部

発行部数　沖合定線報告　45部
　　沿岸・浅海定線報告　55部

南西海区水産研究所外海調査研究部に所定の海洋観測入力様式「ＰＯＤ」にてデータを入力したフロッピーディスクで報告した。

2）　海況・漁況情報の発行

a）海況速報　漁業情報サービスセンターからファックス受信した海況速報はすべて、県下関係漁協に直ちにファックス送信。

b）人工衛星利用沿岸海況図　サービスセンターから受信後、利用価値のあるものは県下関係漁協にファックス送信。

c）南西東海海域海況速報　上記 a)、b)と同じくファックス送信。

d）南西東海海域沿岸漁況情報　適宜業種別広域漁況を関係漁協にファックス送信（ 2～ 7月）

e）沖合黒潮調査速報　「わかやま」による本県沖合の黒潮とその内側域の漁場海況調査結果速報で関係漁協、関係機関にファックス送信。延13回。

f）和歌山県漁海況情報（第113報～第124報）　和歌山県沿岸沖合を中心とする１ケ月の海況と漁況および資源の解説。

発行回数　月１回、1994年 4月～1995年 3月

主な配布先　水産庁、水産研究所（南西・中央)、都道府県水産試験場、県内全漁協、関係協力漁業者、その他関係者。

発行部数　200部

g）その他　毎週１回海況、漁況の新聞広報（週間南紀ウィークリー、紀伊民報等)。
　　定地水温は毎日、気象協会を通じて広報（和歌山放送)。